

授 業 目 名	言語発達障害学 I	授 業 形 態	講 義
		配 当 学 期	1年（後期）
担 当 教 員 名	熊田 華恵	単 位 数	1単位
		時 間 数	30時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>前期で学習した基礎知識をもとに、機能性構音障害の臨床（検査・評価・訓練）について学習する。</p> <p>〔学習目標〕</p> <p>訓練の目的が理解できる。 教材を作成することができる。 語音聞き取り訓練ができる。 音の産生訓練ができる。</p>		
授 業 回 数	授 業 内 容		
第 1 回	オリエンテーション		
第 2 回	前期の復習		
第 3 回	構音検査法について（検査法の種類と実施方法その1） 選別用構音検査		
第 4 回	構音検査法について（検査法の種類と実施方法その2） 単音節構音検査		
第 5 回	構音検査法について（検査法の種類と実施方法その3） 診断用構音検査ほか		
第 6 回	語音聞き取り訓練①		
第 7 回	語音聞き取り訓練②		
第 8 回	音の産生訓練①		
第 9 回	音の産生訓練②		
第 10 回	音の産生訓練③		
第 11 回	音の産生訓練④		
第 12 回	音の産生訓練⑤		
第 13 回	症例検討・訓練立案		
第 14 回	症例検討・訓練立案		
第 15 回	まとめ		
評価方法	小テスト・課題20%、定期試験80% で評価します。		
教科書 参考図書	<p>〔教科書〕 改訂 機能性構音障害 本間慎治編著 建帛社</p> <p>〔参考図書〕 言語聴覚士のための機能性構音障害学 白坂康俊・熊田政信著 医歯薬出版株式会社</p>		
履修上の 留意点	必ず復習をしてください。また、小テストを活用して基本的知識の定着に努めてください。		
メッセージ	機能性構音障害をはじめ、「小児のリハビリテーション」について学生の皆さんと一緒に考える機会としたいと思っています。積極的な意見発表を歓迎します。		